

北から南から

鉾ヶ岳登山

霜野好克

能生町は、新潟県の西南に位置する。その西隣が私が住んでいる糸魚川市、そして富山県と接する青海町がある。

能生町には、『新潟ファミリー登山』（新潟日報事業社）にも紹介されている鉾ヶ岳（一三・一六m）がある。標高こそ高くないが、急登が多く、所々ロープや鎖場がある。町の花であるホンシヤクナゲの北限としても有名であり、古代この地を治めていたという奴奈川姫や白山権現を祭る信仰の山でもある。

さて、前置きが長くなりましたが、木浦小学校四年間の勤務中、五・六年生の子どもたちと事前調査を含めて、鉾ヶ岳・権現岳に六

回登りました。

一九九〇年五月二四日、運動会の予行練習の日、『上越地方の午前九時から正午までの雨の確率は、五〇％』と天気予報。六時半、県自然保護員のYさんに「大した雨でもないらしいね。詳しい計画も早めに立てたいですし、多少の雨でも行きましょう。」と連絡。

車で溝尾の農道終点まで一〇分。九時五分登山開始。Yさん、校長、用務員、私の四人。歩き始めて間もなく、ぽつりぽつり……やがてそれが小雨となる。九時三五分鳥道分岐点着。林の中で山鳥の羽音。

シゲクラ尾根には、一〇時四五分着。雨足が早くなり、気温も下がっていく。谷間には残雪が多い。前方にシラネアオイ、イワカガミ。足元にピンクのイワナシの花。咲き始めて紫をちょっぴりのぞかせたフデリンドウ。岩場の上にホンシヤクナゲ。

金冠、十一時五分着。いよいよ難所。直登で一〇mのロープ。続いて二〇m岩登りロープ。岩と岩の裂け目に足をかけ、一人ずつゆっくり登る。ポンチョを着ているが汗と雨で体は、びっしょり。パラパラとついに霰。金



冠頂上着十一時二〇分。

いよいよ、校歌にも歌われている大沢岳。ここが大変。尾根の両側が絶壁。たったの三mくらいだが、晴れていると身もすくむだろう。ロープが渡してあるが、身を任せると危ない。「ここは、どうやって子どもを渡すか……。ここできどまる子どももいるかも……。無理は禁物……。」

十一時四〇分、大沢岳一二四〇m着。鉾ヶ岳手前五〇〇mは雪溪。頂上着十二時。小屋の中の気温5℃。寒い、寒い。登山靴もぐちよぐちよ。靴下を脱いでじょじょと水をしぼる。冷たい蜂蜜入りのレモン水も飲む気になれない。

一時二〇分小屋を出発。たったか、たったか……。二時間後登山口に到着。そして、柵口温泉で冷えた体をとっぴりこん。

六月四日快晴、八時四〇分登山口出発。先頭は六年男子、続いて女子、五年女子、男子。所々に学校職員五名。さらに自然保護員のYさん、町役場産業課のSさん、公民館の若いKさん。総勢三四名。

初めのうちは賑やかだった子どもたちの声も少なくなり、女の子の中に「こんななら教室での授業の方がよかった。」等々、ぶつぶつぶつ。それでも、目にしみるブナ林。下から吹き上げる涼風、喉を潤す雪解け水……やさしい自然たちに守られ、最大難所の金冠、そして大沢岳への馬の背を無事通過。

大沢岳手前では、町の有線で、ちよいとかっこをつけて生中継インタビュー。先頭は、鉾ヶ岳山頂へ十二時二〇分着。

五年生のJ君、大沢岳手前でエンスト。担任もあれやこれやと手を尽くすが埒があかない。やはり子どもの出番となりました。こんな時は、教師より子ども同士の方がよい場合がよくあることです。いとこのD君と六年男子の応援で十二時五〇分全員登り終えました。無線で逐一連絡をとっていた教育委員会の皆さんもひと安心。多くの人たちに支えられ鉾ヶ岳登山が無事終了しました。

糸魚川、西頸城は自然も人もやさしい所です。一度いらっしやいませんか。

(能生町磯部小学校)